

令和5年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 キャリア育成センター

申請組織長 役職名 キャリア育成センター長 氏名 吉田 あけみ

統括責任者 役職名 国際コミュニケーション学部 氏名 水島 和則

課題名 SUGIYAMA エアラインシンポジウム ―キャリアとしての航空業界を考える―

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	水島 和則	国際コミュニケーション学部	企画・運営マネジメント
		北島 和徳	キャリア支援課長	企画補佐
		尾内 里江	事務職員	企画補佐
		押元 翔馬	事務職員	企画補佐

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200字～300字程度で記述)

客室乗務職、グランドスタッフ、グランドハンドリング（航空貨物）の担当者として現役で活躍している卒業生を大学へ迎えて在学生との交流を図ることにより、航空系専門職を目指す学生の航空業界・職業への理解を深めることを目的とする。

併設校（高校・中学）や協定高校等の在校生を招待することにより、本学の卒業生の活躍を直接確認してもらうことができる機会となる。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300字程度で記述)

このシンポジウムでは、現役で活躍している卒業生を招き、各々の主な業務だけでなく、1日・1か月のスケジュールを紹介してもらうなど、人事担当者からの企業説明では確認することが難しい、より具体的な業務についての理解を深めることができることが特色である。また、シンポジストが本学の卒業生であることから、在学生にとっては親近感があり、安心して話を聞くことができる。

本シンポジウムには、当該年度の内定者にも参加を促しており、卒業生と在学生のつながりを強くすることが期待できる。

また、併設校（椋山女学園高等学校・椋山女学園中学校）や協定高校の在校生も対象とすることにより、本学卒業生の活躍を直接見てもらうことができ、広報としての効果も期待できる。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

エアラインシンポジウム出席者のアンケートより、すべての回答者から参考になったという回答を得られた。「大変参考になった」90.9%、「参考になった」9.1%。自由記述欄では、「本当に貴重なお話を聞かせていただいてとても勉強になりました。」「この業界が自分にとって憧れなのか、本当にやりたいことなのか自己分析をしっかりしないといけないと感じました。自分のしたいことを手に入れるように、先輩方を見習って頑張ります。」といった回答があった。この結果から、本事業の目的である客室乗務職やグランドスタッフ等を目指す学生の航空業界・職業への理解を深めることができた。

また、「貴重なお話を聞いてさらに理解を深めることができました。わたしもいつかエアラインで働けるように頑張りたいと改めて思いました。」「航空業界をこれから受験する身としてとても参考になるお話ばかりでした。」「現場の声はやはりインターネットとかで調べても出てこないの、生の意見が聞けてとても参考になりました。航空業界の中でも全然違う職種を希望していたのですが、グランドスタッフも客室乗務員もとても気になるお仕事になりました。」というコメントがあり、参加者の就職活動へのモチベーション向上やキャリア意識の醸成にも繋がったと考えられる。

さらに当日の司会進行は有志の学生が行うなど、学生がシンポジウム運営の一端を担うことにより彼女らの社会人基礎力醸成にも寄与している。

シンポジウム後には卒業生と学生の交流があり、卒業生と在学生のつながりを強くするという目的を達成できた。

出席者 在学生 27名、教職員 4名
卒業生ほか(登壇者4名含む) 8名

計 39名

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①航空業界理解	②職業理解	③卒業生在校生の繋がり	④キャリア意識醸成
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

昨年度より航空業界の採用が徐々に再開し、現職にとっては忙しいなか、A社、B社、C社の3社より4名の卒業生に協力していただくことができた。参加者のアンケートの結果から、航空業界の現状を知ることは航空業界も含めた今後の自身のキャリアを考えるために有効であることが分かった。

来場者数は39名で昨年度46名より7名下回る結果となった。しかし、航空業界への就職を目指す学生が少なからずいること、その学生たちのモチベーション向上につながったことは間違いない。

本プログラムは必ずしも航空業界を志していない学生に対しても、社会人としての仕事への姿勢を学ぶことに有効であることから、より多くの学生に参加してもらえよう来場者数の増加を図りたい。